畧譜

震

遠藤

二百十一冊

内閣文庫
番號 和 36088
冊數 211 (149)
函號 156 17

内閣文庫
函 五六
架 一
冊 二一
號 三六八
類 和書

国立公文書館
National Archives of Japan

清水家文庫

記錄御用所

376

藤原姓

近藤

高五年豊臣秀吉公関白宣下

家教 慶安二年三月廿五 藤ノ丸

大織冠藤原鎌足十代後裔下総守

文行二年近衛文脩行十代

近藤 近藤 近藤

滿國

始末志

寛永年中

清廉実心ニ河国宮利ニ城を致らるるの付

備前藤右衛門殿ゟ連印仕ル手紙ニ付
御尋ニ付ル書付ハ
文化五辰年ニ
寶八百石ニ
寺社奉

寄置ル、近藤力之助
京都年中

清蔵君之助母方利兵衛ト云ル者の
家蔵ヲ
五郎兵衛ト云ル者ニ
清蔵君之助母方ニ
戦乱の時ハ
村小屋ニ
寺奉ニ
[illegible]

近衛関白殿　嘉助

清蔵天（なお仕）父の家督を相
清蔵天逝去の後今川義元に属し
天正六寅年十月八日死亡年寿

康朋　近衛右兵衛督　嘉助

初　信康

始父に従今川義元の麾下に属し

備前守代に三浦宮利村を所領し
行て三百石を給せ其父の他を相
続し信新命し
東照宮の旗下の士仕家康公に
に出仕お將軍秀朋を河国に
こ吉田村を所領し井伊谷に
山川道前に業務を
元和元年大坂陣に
見て康朋に二人合

東照宮（拝ヲ）ニ成ル事ニ付人ノ名
并伊勢前ノ守等ニ仕ル井伊掃部頭城郭
城形絵図（写ヲ）ト和泉守ヲ初ト
敬白　起請文ノ事
今度ノ大法ニ井伊掃部頭ニ成ル
一ニ付ニ申ス処ニ相違ナク
ノ事ハ世ニ遠ク文ヲ残ス
天自神ノ別故ノ為ニ
ノ義ニ退ニ門ニ敬白

代ノ御書ヲ毎年ノ大連名ニ
禁天帝ノ歌ヲ天王寺ノ宮ニ
現ノ日本国中神祇（霊冥ヲ）
祥
永禄二年十二月十日　家康
義信
氏真
氏政
北条

[illegible]
[illegible]
○[illegible]年[illegible]月[illegible]百[illegible]利[illegible]甲[illegible]
[illegible]蔵の時少人数[illegible]持[illegible]敵[illegible]
[illegible]
[illegible]御[illegible]蔵[illegible]甲[illegible]の押
[illegible]河国[illegible]高村[illegible]
[illegible]蔵[illegible]人[illegible]
[illegible]伊[illegible]人[illegible]

[illegible]働[illegible]
[illegible]百[illegible]
○天正十六子年[illegible]月十二百九七拾[illegible]蔵
[illegible]御[illegible]寺[illegible]

秀用　近[illegible]蔵[illegible]　[illegible]　辛[illegible]
登[illegible]
東照宮[illegible]州[illegible]年[illegible]の父の

指揮ニて会所ニ[illegible]
伊賀節の道案内ニて[illegible]
東照宮ニ公儀用意[illegible]
[illegible]
[illegible]
指出ス[illegible]
の[illegible]
用ニ[illegible]

会所ニ[illegible]
東照宮ニ別[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
城[illegible]
河国[illegible]
用[illegible]

而る山縣二郎三郎左衛門尉殿の御代官
押領の責を以て、雲州より甲州
より山縣右馬允満之寺と云事を
扶人数を以て、井伊谷を人数を
伊平村へ引退く、退て山縣と云を
追討に成て、後用平左衛門
用豊に家安人切て、井伊谷
を人数伊平少領に入て、後甲
州へ引退く、後は不問成

こゝに去る比、岩村へ流れ来る
婦人、合戦仕る事、元亨元年
の後武田信武、岩村の城を
こゝ和山縣二郎三郎左衛門尉殿
し時、右馬允満之、後用平左衛門尉殿を長崎左衛
左衛門尉殿、百騎ばかりの中に、人を
右馬允満之、後用平左衛門尉殿、井伊谷
へ去て、後打て出て、木曽へ引退く

建武三年長篠合戦の時師冬（酒井
雅楽介）数度攻寄の時先手の
市衛の壹門（流浪京城責）而月通小
て一番宗門国横須賀之林藤城
の時後ハ入城之儀ハ家門時度用
ハ首七ヶ所の遠河国田中城責
の時大ハ稲荷ハ合戦ハ度用城と合
甲州ハて少家氏道と合戦の時相模京
扇ハ大ハ係七郎左衛門ハ度用へ

命ハ家ハ少家長尾家ハ家ハ伝
ハ家ハ加りハ伝而（浜合）賀ハ度用
の家敵ハ人打ハ後
東照宮学問ハ東村山市陣ハ富村山
神城ハ敵ハ法ハ切ハ大ハ係七郎
大ハ家ハ清ハ拾ハ遠河ハ（長篠）
ハ門ハ家ハ少家長尾家ハ伝ハ
切ハ敵敗ハ甲州ハ市陣ハ
市衛ハ凱陣ハ清村ハ信長ハ庵法

岡小牧ヶ浦お呼ばれ申し候ふ〜井伊谷と
人数と井伊谷城補貞政お備を命ぜ
られ人合戦の時秀用政お備をく
御出馬ふて山を押下し備を
立て秀用お後せ〜う山の七八分よ
義元を立て取と毎〜使〜中〜使者を
以て勝ら〜を使く政備を使新
勝御ふ〜敵を横矢ま新蔵池田
猪入義元御ち立政ふ者ち使別

上田善兵衛ち面善兵衛を使らる時
遣ふ〜井伊谷政味方を離れ下る云
秀用敵ち小田原政お備ふ〜と
月食有伝聞ち病紙ち為別
と遣を報ち為ち使ち篠田猪
ち為ち〜ち為政ち使く秀用
乃為〜ち〜ち政ち使ち為ち
秀用ち遣ち為ち〜ち使ち夜
秀用ち遣ち為ち〜ち使ち篠田猪の使ち足在

六月廿二日秋吉攻ノ籠城輪番ニ
清水宗九郎逆心の時之紙ハ清水ハ
伯耆ニ城の内ニ隠ス清水の論と称
し歌と伯耆ニ有之ハ
其戸隠ハ地名ハ
八年秋吉攻寄ル所ハ新宮ハ秀国ハ
四郎兵衛ハ秋吉攻ハ
四郎兵衛ハ高ハ秋吉攻ハ
ハ

也伯耆国ニ為ハ清水宗九郎ハ
伯人ハ
ハ
○并ハ秋吉攻ハ秀国
高ハ
ハ
長十年二月ハ
寅年ハ桐ハ
城ハ○大ハ秋吉攻ハ

摩の元亨間に伯耆に流されて配所
のうきめ
東照宮上意を蒙り流人豊前に往
人なり 浦士四郎 平人 淀平 武田人 と
平 〃 〃 厳 〃 を 被 豊 の 摩 に 貢 八 ヵ 月
元和元年八月秀頼助命 伯 〃 〃 〃 〃
知 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
秀 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
小 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
後中務忠雄 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
長 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
元和二年八月勢州射熊 〃 〃 〃
治 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
後今剛隆寺 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
すること 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
大 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃
〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃 〃

勤御新開猶又先例之通被仰渡候旨御
座候ニ新開高弐千五百石余ニ而是ハ元禄十
月ハ発開為致御普請所ニ相成御勘
定所へ被仰付候旧地故発開候
候處高五千石余之内者御預所之川崎平
右衛門開旧地ニ而御座候ニ付勘定奉行
千五百石余金銀銭〇同上ハ申年嫡孫勤御
新開仕候所御座候ニ而五百石余〇同
七月年代同料并検見大河内殿甲二

願同三年五百石程ノ寛永元年
小宮山城守同ノ同二年十二月十日紀時
新田有候処三百〇中五百石余の開
元和二年嫡孫勤御新開ヘ二千五百石余
譲〇元和三年新開二而御復御開
可ハ五千三百石余之ハ弐五百
旧格式石余ニ御座候寛永二年
九月二百日毎度ノ同ハ宗年

[illegible]

[illegible]八千五百[illegible]石余[illegible]内[illegible]孫

貞[illegible]千石孫[illegible]御用一[illegible]百石

余用一[illegible]百[illegible]用[illegible]百[illegible]孫

長九郎用將[illegible]百石余[illegible]半

郎用[illegible]三百石余[illegible]書[illegible]

配[illegible]百年二月[illegible]日[illegible]指[illegible]

貞用[illegible]浦[illegible]大[illegible]

用豊　[illegible]市郎

[illegible]石[illegible]材[illegible]

[illegible]千九[illegible]

用成　[illegible]千松

[illegible]銭[illegible]八分

用徳　[illegible]　半郎

[illegible]百[illegible]氏[illegible]半郎

用[illegible]百[illegible]

用改　天養元年都ヲ号ス
　　参篇有

用脩　天養元年ヲ号ス　平十郎

紀伊国ヲ号シ後年ヲ改ル

雲用　近衛少将　助仲

尚東庫ノ付冊伊東義祐ヲ以テ
左小弁二月廿二日夜ニ入保曲輪ヲ攻

長盛大将小屋ヲ討ル日吉ニ百
東照宮　初ハ石垣山城ヲ築キ東庫
ヲ号シ初庫ニ銭切ヲ称シ紀伊保
ニ胴後鞍ヲ号ス　毎所（けゝ）九家ニ要列
九戸ヲ義国ノ名下野国小山ヲ号ス
東照宮ヲ小牧ヲ以テ秘ヲ伝ル
名護屋庫伝ノ法ノ関ヲ東庫
伝ヲ背ル　十月ニ入ル於本国国民八
殺人家村弱ヲ年度所大勢ヲ掠ル歟

東照宮御代慶長大坂一戸之上之者共
忽大坂ニ入ント上意有り附近の者
共奪取御ゆるしなると無之ゆえ
主君藤堂忠右衛門忠右衛門ハ
奪取御ゆるしなし度ニ用も
忠右衛門ハ自身ニ方打苦戦の時
用ハ側ニ付く御ゆるし忠右衛門ハ
陣刀を御ゆるしの間所と若
初ハ側ニ付く御陣ニ張御ゆるしく

上之上意ニ父家督之別田地之
内石余御ゆるし慶長七寅年十月一百
東照宮ニ新田ニ所ニ新田
御ゆるし面扇ニ所ニ新田
三度ニ法度ニ先
東照宮ニ側ニ初ニ内千七子年ニ
設府ニ付ニ新田藏之所ニ佐郡
新田村能洞流寺

忠吉

元和九年

実高八万石余家員四万石ニ成ル

外様ニつき

東照宮ゟ四万石を無御座ニ成

両度ニ成ル

寛永年中ゟ水戸領ニ成ル

負用

近義公御代

高知

芸州七子年七家の内浅野

永昌院様ゟ

東照宮ゟ

浅野

大坂陣

和歌山

山内

○寛永二年

頂戴之元和七酉年
台徳院殿へ初而之御目見戊午年御書院番
之寛永元子年親父秀用小田原御城
番之節自分聞召遣在番寛永八未年
二月六日親父死去之節兼而二而御番
其跡目之親父来於家督被下置
知行被下
台徳院殿　上意ニ而秀用書面之通
被仰付候小十郎ニも知行被下置

江戸府登御目見尾張九郎兵衛ゟ
御仕組無之ハ登御番尾張九郎ゟ年寄ニ而
被仰付候以来上様御在世中御座候
台徳院殿御代ニ而年寄尾張之家督
聞召ニ付年寄小十郎聞共ニ尾張之
御年寄尾張九郎ゟ子供年寄尾張に
金之儀被仰付候ニ付御公事役人
其御役被仰付候年寄ニ付御同九年中
年十二月御書之寛永年中御城中

[illegible]

文政

大猷院殿日光山社参供奉

大猷院殿御法事ニ付ハ[illegible]

車中[illegible]書

厳有院殿日光山社参供奉[illegible]

御法事ニ付[illegible]三年年十二月百人

組頭ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

日光[illegible]

[illegible]

[illegible]

桂子長男

備前

貞享元年ノ頃ヨリ家督相続ス

近義少助　竹助

始祖義政ハ寛文十一辛亥年六月十五日
初メテ大和守殿ニ九年ノ間勤仕ス
貞享二乙丑年二月十日ニ西門院
当年ニ年ニ香ノ宮様ニ年年
四月十五日ニ病死ス同年十二月布

近義少助　吉之丞

右同月二日ニ病死ス同月
廿二日ニ於ニ九条湯浴ス法名等

肥前

元禄十二卯年十二月九日ニ家督ス
当ノ月十四日ニ八月十日ニ初メテ
六年ニ九月十日ニ
若宮殿様ニ桂昌院様ニ東福門院様ニ
後宮ニ御所ノ御内ニ御出仕ス

仍〇同年七月十二日
樋口清兵衛殿ゟ
御の時分為ニ
家貴ゟ
樋口清兵衛殿ゟ
十月十七日
常喜清兵衛殿ゟ
十月十六日ゟ
此ゟ
足利〇同年十月八日
同年九月十五日
元亨年九月
等

中之節

寶徳
享保二年卯年十二月十日百姓〇覚
保元年十二月百姓〇同之覚
年貢九百五拾六貫文等

英用

[illegible]奉陰男
近衛少将　　今出川

[illegible]年八月二十[illegible]
同年九月[illegible]
[illegible]中納言
[illegible]二年十月八日[illegible]
十二月[illegible]宣旨[illegible]
[illegible]日[illegible]

病気ニ付出仕ニ[illegible]年二月廿八日[illegible]
同年[illegible]

壽用

近衛少将　　幸[illegible]
[illegible]千[illegible]
四位[illegible]年十月[illegible]
年六月[illegible]
日[illegible]
十月[illegible]

後同年十二月十八日新田氏の同宗成年
貞治百姓等の言上寛政九巳年十二月十
日中川番　三郎兵衛之年八月新田の業
○知行高新川法新今福村と氣賀
閑所陸道の内代今福村と番
所之支配に改方ホ氏相同
拾五初

東世子

友東姓　万千四百六石
乙友　寛永廿年の薄の丸
清水ヶ丸　光円三科

大織冠源氏東人乙友原人也廣用又男

用改

乙友勅命寄　小六

東照宮に東照宮に札を所々に谷戦使
○天正十八宣年小田原に陣し三氏使奉
生迎并伊豆国を取給ふ
離宮源氏○乙友後百迎て小田地千石

御使番○寛永二丑年御用向ニ而大坂ニ
被遣候処七月十日彼地ニ而死、年三十八歳
江岡寺伴岩ハ谷中ニ葬

閑清　　五座勘太郎　　勘七郎

寛永二丑年家督○御書院番○御徒頭
布衣○御納戸頭○加増二百石○寛保(寛永十三丙子年五月朔日)
十月十三日王子ニ而進物上ニ候て日

大猷院殿平川口ゟ被為成候節御目見仕
一ツ橋ゟ御供仕して小性衆ニ成と云
新見新左衛門五座勘兵衛王子ニ而被成
大進物ニ而仕合よ〜付与力御目
見ニ参候と同組ニ御取次被閑ニ付候人
其外ハ組中之衆文ニ出候人王子ニ而被成
御書院大名衆ニ一両ニ落去大進物ニ而
足軽之衆阿部四郎五郎御中奥番衆
相渡○慶安二丑年三月十二日

厳有院殿日光供養○同巳卯年巳月
廿六日
大猷院殿御棺日光ヘ供奉○寛文三癸卯年
[illegible]月[illegible]日日光供奉の節土御門[illegible]
廿六日白張二[illegible]根上[illegible]の上ニ巳辰年
[illegible]代ヶ紀ヶ年九月[illegible]

用弘 [illegible]
[illegible]
[illegible]門入道

[illegible]
[illegible]

[illegible]元申年四月[illegible]組○上ニ巳辰年
七月十二日[illegible]
[illegible]の同七未年[illegible]改○上
[illegible]申年十月[illegible]日布
[illegible]○天和二戌年[illegible]月廿六日[illegible]布○
同二年[illegible]十日[illegible]○元
[illegible]元[illegible]年[illegible]月十日[illegible]○[illegible]の同
巳未年七月廿[illegible]
[illegible]紀年二[illegible]同寺[illegible]

某

初代○天和元年九月廿五日出家院
番の頃言元子年六月十六日死年
五歳同寺葬

[illegible]

次男[illegible]の元禄四年七月廿五日
婚の同年五月十八日出家院

○宝永元申年六月毎日[illegible]村家
門渡[illegible]七月廿八日出脱の同八丑年
六月廿日出流人十月十八日布衣○同七寅
八月廿六日出家院[illegible]○享保七寅年
三月十五日出[illegible]人の同二年卯年
[illegible]月廿九日脱三○寛保元酉年十月
十四日死七十九同寺葬

[illegible]

宝永六丑年ヨリ百四拾壱の高保九
辰年十月十八日鬼動の国中ニ有
之日西丸書院炎の宮保二戌年ニ有者
鬼者○近年ヨリ文政年ニ有者鬼れ
書院者ニ成の十二月十九日布ニの宮殿
三百年九月廿日病死の昭和元申
八月十百拾位社ニて稱ヒの安永七戌
ヨリ九ヨリ死年六未ヨリ寸ニ

用一

全者十三條　勅七所

寛延元辰年十月廿八日初見の昭和元
申年八月十三日宮殿の国ヨリ寸ニ
廿日四中社の下宮二寅年二月二百九又
十二月ヨリ寸ニ

用後

遺教勅案　勅七所

天保二寅年五月家督の同年十月
廿九日蔵院様の同日長二月廿九日
病死の同六年子年千百四十石

三千四百六石

藤原姓　弓八百二十五石余
丸内安庫之角
家筋
安庫之丸
庫製角

迎夜

大織冠鎌足公十五代の孫
同日男

用徳　左兵衛尉　少将

長久元年陳徳の元和元年子年日月
廿日死

用平（久力）　左馬允半助　仁助

大坂陣に召抱へられ初め人質（藤堂高虎）仕り、寛永六年
三百人余（後）の知行を給ひ、同年の
大猷院殿御代御暇を賜ひ、無拠召放
二百石の内五十石召放
後光院殿御代、寛文十年十月召放
二寅年迄御仕の内、十月廿八日死
十九歳にて長寿寺に葬

用久　左馬源次郎

（延宝元年二月廿七日死）
家督の書院番の元禄十年（注）四月新番
御小性組衆の永元年六月五日
法始衆の同日寛文十年二月（元和元年）病死の為仕
の内二度目の日十日死七十二歳にて
葬る

用照　左馬允

年月　日　早世組

永仁元年一月廿九日
享保元年十月廿五日死去
同月廿九日葬

用脱

宝永元年閏十月廿二日
七歳ニ而

舞者の享保元年十月廿日
死者の同月廿六日
同年十月病死の同年存

其子沙従の元文二年十月廿九日
年二歳同月廿日葬

用趣

宝永年間ニ二字

享保十巳酉年十月廿八日舞者の同
年十月廿七日死者の同年九月八日
廿二日四歳の寛延元辰年十月
廿六日病死の宝暦四甲戌年八月二日葬

敬島

四和文る年一月八日死る年五歳同寺
[illegible]

用貞

実丹二文春院俊秀の子
[illegible]仲　[illegible]　[illegible]

寶暦三酉年八月九日年春る○同
四年八月廿日○同文字三月九日
小性組の四和二戌年十月廿七日病死
天明四辰年八月病死○貞享元年
[illegible]

八月十八日死る年七歳同寺葬

用規

実[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]元年五月廿九日○[illegible]
[illegible]八月十日死る○同文字二月廿六
[illegible]○貞享八[illegible]十二月十日死九
勤

[illegible]文[illegible]拾五石余

大藏省印

貢原姓　名三平太
通称　九十抱角
号欽

通称源助　明治二年二月

閑話

貢永九年一月浦賀奉行久須志の度あり
日本史に○貢永元年五月新しく席
参下蒔絵の意　貢文日辰年十月日死
六十一歳下谷称仲院墓

永禄三年七月十五日
加冠

用章

左衛門佐中将　庶人形　天皇

用章親王元亨元年十月廿六日任参議。同日
叙従二位。又日月月付元徳元年
二月廿三日任大中納言
長慶院の同年三月十一日
分の同年六月廿日任右大臣
宝永元年閏十月廿日
二月廿七日薨

用和

用和親王後
左衛門督　崩御

寶永二年九月廿九日家督
九寅年十月廿九日叙従
薨ず

用壽

左衛門督平宣雅　初形　天皇

享保二十卯年二月ニ家督ノ元文
辰年十二月十一日初見ノ宝暦四戌年
正月廿二日少事情見ノ国一巳年病
免ノ明和二酉年二月九日死ス年六歳
同寺葬

用為　遠藤慶次郎　甲斐
俗名ハ
明和二酉年ニ家督ノ安永二巳年

天保七日ニ小納戸ノ同月廿九日ニ小姓ノ同
未年閏二月十八日諸家ノ同年日
光御社参供奉ノ同年十二月十八日中奥
小姓ノ同七戌年二月十ニ家督ノ

用渥　高二千石
豊後守殿

高二千石

東照宮御代　迎義　高野百康

義政　家政の孫光　抱康と角

定義石見守康用政男石見守

秀用又男

義用　定義三郎太郎

永禄中義政四勅に永田三郎次郎義

四郎信之助の先祖と云○慶長年

義政二河を江信濃四代義と云義

開成院いらい以降度利益代受助教勤
元和八戊辰年十月大日如来半六茶羅別
大津西之寺ニ奉

義孝　仁安元年丙寅
慶長年二甲申年後府白法橋
常陸介勧盛附ノ寛文三癸卯年七月一日
死歿十六歳紀別和州山辺信寺奉

義教　迎義政之陪
寛文三癸卯年紀別与奉者ノ元禄二
巳年付ル日紀与四國廻ニ与奉
迫

義賢　仁安元年丙寅
元禄二巳年十月六日奉者ノ文保元申

同月 法皇院御供仕り奉る公卿殿上人の
元文三年閏十月十日 九条殿
次の公卿 寛保三年閏十月十八日 九条殿
後法院殿御逝去 法皇御歎
御病悩の間 同年九月廿四日 九条殿
摂政殿 次の公卿 寛延元年八月十日
大炊御門殿 法皇御歎の間 二年十月
廿八日 近衛殿 宝暦元年十月十日
仙洞院殿御逝去 法皇御歎の間 宝暦二年
六月十日 老父摂政の間 同年六月十日
九七年来 当国感応寺 葬

義種 文政助命 第六男 母御 斎

寛保元年七月廿八日 初入の宮廷
二年九月 当家の間 六子年九月
十日 九条殿 次の間 七丑年十月
十六日

後法院殿ハ用人（十二月廿九日布衣の同九
郎年九月ハ元服ハ官位ニ言ハ時従二
ヲ経テ○宝暦十辰年十月廿六日
惟信院殿初名活水ハ成ヒラル仙洞有
御用人時ニ二の同年十二月ヨリ
後順院殿同ヲ○同年二年ヲ七月十六日
ヲ用人（兼○寛政二庚年ヒ月廿
七日ヲ九法眼ニ叙ス○同年ヲ
十二月七日ヲ九法印

義淵　　定義一郎

明和二酉年十二月廿一日初見の安堵
申年十二月十九日小姓組の同ヲ
二月二日ヲ有勤料ヲ時ヲ二の天明
元丑年十月廿日ヲ大的時ヲ二の
安永六酉年九月廿六日九番の同九
子年八月十八日家康の天保三卯年存
十二月九番三ヲ年ヲ及相の寛政八

安永十二癸卯年十月廿一日ヨリ伊勢國神保彩田
廉物語る○同九庚辰年同七月七日沼
小納戸○同月廿一日免附十二月十七日
衣

弐百俵

藤原姓　高百俵十人扶持
近義　家紋ハ丸ノ内ニ抱唐角

近義助八郎義貫二男

義端　近義彩五郎　小八郎

享和元年十二月十二日新規ニ出ス
彩次郎厳近留番百俵十人扶持勤ノ内
金千両ニ成一ヶ年皆勤ノ者ニ夏冬賞
ヲ与ル○文政九丙戌年十月廿九日附

切。同年十二月十六日清水半人跡二百俵
ニ而同日迎番書跡元兼役。同十二年年
七月十八日拾跡拾奥勤迎番書跡元兼役
兼。同和八卯年二月廿五日用人見習。
安永五申年二月廿八日用人。同年十二月
十六日布衣。寛政七卯年七月清水殿
迎ニ出ル同年八月廿九日清水勤番組頭
。同八辰年三月廿八日死七十兼ニ而感
通寺小菊新

義直　実ニ而ハ敬宗院
ロ目校金ニ而親水男
近義十ニ云ル　新十郎

安永二年年五月十五日養子。同七酉年
二月十六日実ニ而ハ厳小性。天明八申年
九月廿五日病免。寛政四子年十月新
番佐上席。同六寅年七月廿六日書信
年行。同八辰年六月ニ而実ニ小書信
。同十年年五月十四日新御ニ被召物

歳後

夜原姓　高三郎右衛門
通夜　家義　廉也角　蘇丸

壬寅天保五年
恐敬動寅ノ用法二男

用常　壬寅天保三年
定宗　巳辰年七月十一日　二百石七人扶持
○万治二年八月　七月廿日書院番ニ成
寛文八年八月九日病死　○同九子年二月

男死五十六歳家督源四郎

用数　寛文元酉年分　金貳分貳朱　源所

元和元申年分　金壱分　金壱朱　源所

七月九日　○　源四郎　○　男子弟

妻　○　寛保元酉年　四月廿日　死

延享三寅年　九月廿二日　病死

○

用章　金貳朱

二男熱次　○　延享三寅年　九月廿二日

名　○　安永三午年　十月廿日　書院番

天保四巳年　十月廿七日　病死　○　家督

二男弟　○　源次

用改　金壱朱　源次所

寛政二庚戌年四月廿六日死

高三百石七升

夜不出仕　高三千四百六余

之夜　家紋丸の内藤角

大織冠藤原鎌足公より右衛門尉二男近藤

右人倍行十六代之後裔平重秀用

二男

用可　之後後助

幼年より組前を以、御ふせちまし○又

秀用分五石余ゆるす○元和元卯年

大坂御陣ニ而白須村ニ而
白須院殿ハ初見与父一同ニ出人ト存ル
此已前御首二ツ討取ノ日一度ニ被成御首
人質ニ入ノ間八代ニ而鍋島殿へ被仕勤
帰路小田原ニ而病死 二月廿日 同年十一歳相果申候
小川ニ葬ル

周治 初周

千葉縫殿助

初見ノ嫡男ノ
白須院殿ヨリ跡絶シ而来ニ至リ病死ノ處
永八未年祖父秀周ニ而閏六月廿日尾張ノ
延宝六年十月廿八日死去年四十八歳
列宗林寺ニ葬ル

実松平讃岐守家臣白須備前守某六男
千葉縫殿助 平三郎

周忠
貞享三年二月朔日初見 ○元禄五年七月
廿二日家督 同年十月寺用相ニ五百石ニ而

世二代可孔

○貞享十年辰月遠州気賀村ヲ過ル品川
弟七郎千石餘ノ出来ル品川ヲ過ル○同十三
年十二月廿二日死 五十五歳 法名 [illegible]
[illegible]稱作院

用清 左近将監 内匠

貞享二寅年二月給物人ノ孫 [illegible]
七月廿五日暇 [illegible] 同月才次郎 男子五百
石余ノ [illegible] 貞享十二卯年十二月廿九日死 五十六
歳 [illegible]稱作院 [illegible]

用武 実用清子左近将監宋め用ひし男 左近将監 内匠

貞享七寅年十月廿三日病死 [illegible] 同月十四
日 三月十日 [illegible] 日十一月八日 [illegible]
死 [illegible] 同月 [illegible] 十月廿

用隨 実左近将監 左近将監 乙亥

嘉保二乙酉年十二月廿日の同年十月
廿七日の条に元服の事
六十七条同寺に奏す

用和　左近衛少将　春助　文庫
安永二年十二月廿五日の条に元
服の事　十月八日条　同年三月廿日
大学寮の同年十二月十日宣旨の宣旨

七月年二月廿日小倉宮佐藤信の同
八歳の九月十四日の後醍醐天皇の同九日
吹上宮馬　上覧の同年十月廿日
後醍醐の死　年一条を別宮林に奏す

用恒　左近衛少将　春助
寛政三辛亥年九月廿六日の同七条
二月廿日公卿の同年十月十日

巳日本書

高三千四百石餘

高百五十餘

迎夜

迎夜

象殺 三分銅 七個遺 羅ヶ水

迎夜動玄濤玄濤後風

沙弥

玄殿 ―― 迎夜動玄濤

法玄壽

元慶九年七月廿九日 [illegible] 小廟来

日本三年十月廿三百五十餘

三十日 清書 清用 の [illegible] 永日 [illegible] 年

四月十三百四十三 [illegible] 清夜科一百餘 [illegible]

清の動玄濤 [illegible] 年八歳 [illegible] 病死 [illegible]

[illegible]助[illegible]
仁[illegible]
[illegible]上仁者壽を大字に花
[illegible]切[illegible]
[illegible]より玄辰と玄壽と[illegible]
[illegible]
[illegible]柳[illegible]馬[illegible]
[illegible]
[illegible]

寛永二年二月
普門院傷[illegible]

[illegible]
九辰[illegible]二月二百[illegible]元
文元年十月[illegible]
口[illegible]同年十七月[illegible]
[illegible]二[illegible]十八日[illegible]二[illegible]中[illegible]十月
七日老[illegible]
[illegible]二[illegible]元年[illegible]月[illegible]
九条麻布白浪天現寺[illegible]

壽俊　全壽家之　米助　又右衛門

享保十九寅年七月当藩江出ス書
二冊御用達ヶ所ニ当ル分ハ成ル
馬場右ヶ門書一冊ヶ樫右ヶ門書一冊
御用達ヶ所ニ当ル上ル分ハ上ル分ハ
卯年十二月十日御ヶ所ヶ海道
元文二巳年九月十日江戸ヶ出ル
同年仕ヶ所ヶ被遣ル

十月百姓田畑ニ厳ヶ敷ヶ
牧ヶ約ヶ仕ヶ候ヶ
○寛保元酉年右ヶ門ヶ
右ヶ門ヶ小ヶ
右ヶ門ヶ病死ヶ
ヶ右ヶ頭ヶ
元ヶ右ヶ頭ヶ
ヶ藩一巻御用達ヶ
保元酉年

有栖院殿義師後同年三月廿六日
御崩御ニ付ル為ニ御葬儀ニ
被成ル。宝暦十二年壬午十月廿六日
仕ル。大臣以下ハ
ちゃう奉行

奉行

仁義少ク命

宝暦十二年壬午十月廿六日ニ宝暦ノ改元

中年十二月廿七日ニ桜町天皇
崩御ニ付自然揚時後二ノ同二月廿日
東福宮ニ百人十奉行御忌ニ蟄流為る。
同月十二日宝倉三後ノ明和二年七月
十九日小十人組ニ入ル。同日ニ安年四月廿日
ニ五位蔵人ニ成る。同日ニ子年
十二月廿日同月検校弁物ノ同八年
二月十九日ニ大納言ニ成ル。同七月
十月廿ニ日ニ園的検校白川殿ノ安永

元慶元年閏月閏十日薨去廟○安永
二年閏月閏日病氣の間に未年閏
十二月十二日終位の間七年十月九日不
行跡[illegible]

壽忠　迎[illegible]卿

安永四年閏十月十日寂○天保
六年閏二月十八日死二年九歳間寺森

壽貞　迎[illegible]卿

天保八年閏月十四日薨

享年百五十歳

歳代代

後原　高五百石

近後　家筋　康抱角
　　藤ノ丸

大織冠藤原ヨリ出ス三河國宇利城ヲ
近後石見ニ入る康用五男勘左衛門改ル
勘左衛門ノ用清三男

近後源左衛門　造酒助

用貞
寛文ニ子年ニ小姓組ニ召抱ル
寛文七未年十月新規ニ出ス扶廉米
二百俵拾人扶持小姓組ニ元禄九子年ニ

廿六ヶ元方中納言殿ヘ。同年十二月布衣被
二百俵。同十廿年六月
遂性院殿御入輿ノ刻。褒賞被二。
同十一寅年廩米五百俵地方。同年
十二月勅ノ使ヲ以テ弓馬。寛永三成年
十月廿六ヶ西丸勤。正徳元未年二月二ヶ
所ヲ六千六百余源寺ヶ蔵

用載　近衛源左衛門　造酒助

元和十一年ヶ月ヶ初ヶ
寛永六丑年十四月六ヶ書院番。正徳
元未年三月廿九ヶ安藤。享保八卯年
三月十二ヶ十六年上勤褒賞一度。同九
辰年十一月十四ヶ西丸勤。同十二未年九月
十四ヶ西丸御使。元文二巳年四月十二
病免寿命。同年十月十八日死年六歳
同寺ヶ葬ル

用意　道義大臣　隠居寛仁

元文二巳年十二月二日家督。同三年
二月廿六日小性組。延享二丑年九月新
番徳院殿附。薨市谷家宝暦元未年七月
十二日小普請。同二申年六月廿四日小
性組。同六丑年七月十八日辞免小普請
。同十辰年十二月廿九日致仕。天明元丑
年九月十二日死。年八歳。日寺葬。

用致　実仁親王第二男　道義源左衛門　号次郎　隠居休仁

宝暦十辰年三月廿七日養子。同年
十二月廿九日元服。同巳年九月廿一日
中書院番。同丑年和泉守。明和六年殿府立番。
安永六申年殿府立番。同七戌年十二
月十四日病免。寛政二戌年四月廿六日

致仕

用容　近藤小膳　時次郎

寛政二戌年四月廿六日家督。同七卯年四月廿二日従御小姓二百石寄合番ニ被

巳年十二月廿九日西丸小書院番

藤原姓　源五郎　千代

近藤　家侯　康抱角　号利山敬

近藤石見守秀用四男

用義　近藤彦九郎

慶長年中

東照宮

台徳院殿ヘ謁ス　大坂表ニ於ル陣ニ

歌ヲ以テ論ス　大御所ヘ

御目ニ被　大御所ヘ

後世花畑法華堂ニ又義周院ニ葬ル有
年頃ハ用我我小田原ハ石塔名代勤ル也
天正十四年寛永三年十月十三日死セ
六十一歳小田原早雲寺ニ葬ル

嫡孫祖父

用物 刑部少輔

寛永八年未年 祖父石見守殘ル物也
四百五十石嫡孫形部少輔 慶長九年 数馬 陸奥 入道

朝鮮人来朝ニ遠州新居船場御用。
西保ニ成年甲州ノ船来ル。慶安四年卯年
鉛材ノ書付中ノ書ニハ慶元年十鈔
沙鉛五番。一万治元成年九月八日宗大膳
役。寛文三卯年清春ノ物首改ニ近元
五年巳年十月十四日百人組。天和二成年
二月廿六日病死。貞享元子年七月十九
役仕。左孫七成年四月廿九日死七十二歳
湯殿稲荷院葬ル

用度　　近義彦九郎　年八

（此度元年ヨリ）貞享元子年七月十九日文用初ル日記

五千石の内四百石二百表会所用賃

高地踏ル五百石表者書合。同三丑年

日光山門主東叡山先流。同三寅年

八月宮大原役。元禄八亥年二百俵俱公。

同十二辰年中山道普請。同十巳年

高光。同年十二月廿四日死ル六十七歳

同年ヨリ義彦

用賃　　近義彦九郎　表会所

貞享元子年七月十九日文用初ル日記

元禄年中山道普請。高光。高永六

丑年九月九日死ル六十四歳　同年ヨリ義彦

用連　近義左門　長九郎

元禄六酉年三月廿八日本家お續嗣る

なく断絶

用連　近義左門　彦九郎

（実父用貫長男）

正徳元卯年本家断絶ニ付同人未年定

大番役。享保元申年同二月九日病死。

同月廿三日ニ三年目ニ当る日寺葬る

用純　近義三郎兵衛　年人　素良

（実近義源左衛門用貫三男）

（用成）

享保元申年四月廿五日家督ニ付。同日

実年二月十六日朝鮮人来朝ニ付選別新

屋敷場ニ出。同十四日年ニ月十五日強府

加番。同十八日年三月廿五日大平場見廻。

元文三年六月十五日家大膳役ニ完係
三奥年十月七日病免ニ寛元子年
八月二日被仕ニ天明八申年七月十日死
九十一歳日寺ニ葬ル

実正義十三活用春日
正義百助　立厳
用俊　モチ
寛延元子年八月三日番　寄合ニ定
暦八寅年二月九日ニ於ル

浄光院殿　日千四浄光浄法日勤書ニ日十三
未年十月十日死ル日千三歳日寺ニ葬ル

用常　初用承
正義　霊名
正義隼人　彦九郎　甲ニ悉
寅暦十三未年十二月廿八日安番寄合ニ
安永八申年七月廿日ニ定大清役日年
十二月十六日布衣ニ寛延元辰年十二月廿日
病免ニ同八丑年四月廿日ニ被仕

実牧殿倫清の頁長男

用倫　左衛門尉　力三郎　長九郎

（三年　年八　三月廿三日　長子）　言之丞

寛文　丑年　四月廿三日　家督　但六歳

九月　新番　強勇　御小姓　羽織

[illegible]　左衛門尉　高五百石　慶安元年　但

左衛門尉　旧氏小瀬　寛政　鷹狩元禄　庫番

小瀬宮内少輔　義益　二代小瀬小左

衛門　吉忠　吉子　長田勘左衛門

婿男

吉忠　左衛門尉　初称長田

元和九年　大和田藩　分家　母方

伯父　左衛門尉　長三郎　吉忠　寛永

国立公文書館
National Archives of Japan

江院○享保十六年禁ニ上ニ而無○江戸ニ而無○武蔵
元禄三年二月風中ニ火ヲ付江戸中ニ而ノ事也
皆ハ日本風中ヲ見火ヲ消シ候此事
上向ニ有之小者ニ而候ニ付其仕方様子
なりとも二ニと寛偏今ニ而候共通り付ある
様候仕付承候ニ而候共通り雇ある所
ある○寺安二巳年
常寒院殿ニ而九日成せられ候御大奥
火切無○寛文十二子年八月六日死去

八幡下谷坂本ニ葬

勝義　住居佐久間　六前出家

明暦二年十二月十日神田浄蔵院ニ居
住○寛文十一年八月廿二日男出家
○同年五月十八日江院住持○同十一年
九月廿九日○近衛八年
浄院殿火ニ燃無○天和二年一月小常住

元禄七戌年二月七日ニ九法数殺
あらく百又指儀ヲ人口ノ四落ニ巳年
十月廿九日病仕ノ享保八丑年閏七月
十日死年二歳同寺ニ葬

義休　[illegible]金人部

四落ニ巳年十月廿九日寂者ノ享保十
二未年二月廿七日小ヲ人組ノ正享二
丑年九月八日同組ノ明和八寅年
十一月廿七日老死寿金二ノ安永二巳年
六月廿八日死年一歳同寺ニ葬

義傳　[illegible]義又三郎　[illegible]

正享二丑年十二月十二日初見ノ明和元
申年閏十二月十二日大四落ノ安永元
九月八日寂者ノ安永四未年二月廿日

死亡年齢大坂生玉童延寺葬

義家　任前後法〻也

安永四未年十月廿五日養子の同年七月
六日死同寺葬　十七歳

義東　実出家名〻者〻
任前後胄義

安永四未年十月廿五日家居

一百文指儀及人扶持

藤原歴代

○

廣庭　近藤　家祿二百三拾石

近廣織部重堯二男

高足　式部助

教育院勅（正四位下孔子廟院長○兼孔

重興　寛平八年

国立公文書館
National Archives of Japan

正宗三卯年十二月廿六日書院番○同日辰年
四月廿六日御書院番○享和二戌年
八月廿九日御小姓七百石○文化九申年
六月十日御番頭○同年丑年書
十番御用人○同十六年子二月廿六日
小普請入○文政六未年七月百俵
家治門番寺嶋

堯暉　文政五年命　持弓頭　從五位

文政六未年七月二百九俵○家治門番
文政十年十八日書院番○寄番
申年十二月廿八日病死○同日戌年
四月四日役仕○同文政十年十七日
卯年四月家治門番寺嶋
葬

政倩　文政四年　役仕　奉行　年命

享保十八癸丑年十月十六日初見の家督
同年十二月家督の同年六月
十九日出羽守の安永七戌年閏七月
十六日病死の同九子年四月十日行住
○天明七未年四月廿六日死年七歳
[illegible]

改右　　[illegible]年命　力之丞

安永五申年九月廿日初見の二男恩次
○同九子年四月十日家督の五百石二寅
又月年四月九日小性組の同六年年
十一月十一日吹上大納言様二の同年十月
七日御小姓動の寅改七卯年二月
廿日小金原迎被仰付の同八辰年
十一月十日西丸御附

二百七百石

秘書課

右 高木廉立ノ扶持
近藤 廉ノ角
家紋 藤丸

左 甲斐甚三郎重忠代ニ所在事ニ
若三男

正直 甲斐長之情

寛文二壬寅年 祐田四郎少人組ノ正直
中年十月廿六日 死付 右四郎下女

国立公文書館
National Archives of Japan

淨法院殿御元服云後一同小書院の元服元
服年十月四廣殿御元服の宣旨六月
日月
竹姫天璋院殿御元服の宣旨二月年月
老免の同日天保八年八月廿七日の同年
十二月二日死年廿三歟寺葬

正方　　天保年八寅の春
　　女房広義　　翌
　　仰跡

宣旨七寅年十月廿五日の宣旨は
天保八年の同五年七月
竹姫天璋院殿御元服の宣旨十二月年
十月の御初参勤の同十六歟成年二月
天璋院殿御元服の宣旨元治年月
一同小書院の同二寅年戌廿の同年
九月廿一日死同日葬

正盛　　女房広清　　石原次

寛保二戌年正月二十九日○定家
元文二年五月二百四十人○同二十七
日十二百病死○寛延二年十
二月十六日九歳○宝暦四甲戌年十月
廿八日病死○同年二未年七月廿九日
同寺葬

雪道　実者　仁安元年次所

宝暦十二未年十月二百参寺葬
安永五申年六月八日死同年二酉同
寺葬

区一　仁安元年源氏

安永五申年九月十日死○天保
二寅年十月八日四九歳十人○同八年
閏十月廿日行九歳○同十年

五月芸病死の寛政七年十月二日
年二歳同日葬

石路

仁義院殿八郎

寛政七乙卯年十二月廿七日死去

法名義安居三郎左衛門義天宗寛

二月右衛門

東照宮御代仕御家人番格

弘化元甲辰年迄御家人番格

こうしく病気に付御免一代

嘉永元戊申年大小二御番所人数減

中天保十二年申年用に上ル

嘉永元戊申年迄

言百俵人扶持

友京姓　　高田千三郎

近友　　京後勘兵衛藤原重勝三男七郎左

○

近友左兵衛尉長安ノ後ニ家九十郎

京春病男ニ家督ヲ継ガセ

重勝――近友織部佐　源右

北織田城ノ助信長ニ仕ヘ長後関ヶ原ノ戦

ニ参ル戦ヒ敗ル後信長ニ命ニテ

国立公文書館
National Archives of Japan

[illegible]人[illegible]慶長[illegible]年
[illegible]日[illegible]日[illegible]一万石[illegible]の同[illegible]
[illegible]東[illegible]七郎左衛門[illegible]
[illegible]大[illegible]
東[illegible]
[illegible]慶九年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]慶長[illegible]

[illegible]仕[illegible]
[illegible]京[illegible]
同九[illegible]日[illegible]
[illegible]寺中[illegible]清庵[illegible]

高[illegible]　初[illegible]来　[illegible]
天[illegible]十六[illegible]年[illegible]十日[illegible]
[illegible]月初[illegible]

関ヶ原の陣後の論功行賞の結果、合戦の小
性の慶長八卯年二月廿六日法名入の
同九辰年正月廿日死亡の同十年巳
の暗殺の元和元卯年大坂夏の陣後
の元和二巳年閏四月廿六日伯父信濃
の利勝と揃って同日年六月廿五日死
享年一歳湯浴海禅寺葬る

重元　文禄元　百戒　授法道休

父死去の時幼年なりしかども
ようやく成人仕り数度の軍功
以て元和四年十月十六日百石を
百戒幼年なりしかども東照宮御河内守殿
召し御仕へ百戒未だ家督
相見仕へ元和九亥年御隠居
大猷院殿四男信濃守甲府勅使山王宮
法華経上東大寺数珠を勅の上松平
右衛門九日浅仕道休と称の貞享二丑年

屋十二百死七年六月廿六日海保ち地
中油松野ニ葬

重信

仁義織紅　勝　直抗

天和二戊戌年六月九日家督ハ二代目
八郎ク七百八石ニ成ル。貞享二丑年三月廿
七日ニ死ス。同ニ寅年二月二百中門
ニ葬ル。元禄六酉年十二月二百死年七歳

同寺ニ葬

政徳

仁義清右衛門　勝　家督

次男政徳ノ貞享二丑年九月六日初見
ノ元禄六酉年十二月十日家督。同七
戌年六月七日中央ニ小姓。同年六月
廿六日ニ小姓ノ同年七月廿二日病死。ニ
永七寅年六月廿二日

清涼院殿四法華一切寺大菩提院
四年四月廿日大河内の高倉天子年
七月廿八日百人(組)の同九年十月
廿日小清水の同年同月十八日
寺(の)同十四年七月七日死年寄
同寺舞人

改共

[illegible]宮内　[illegible]

高倉十四年四月廿日寄者の同天
皇(の)介廿二日大寺清人とりの同七
年三月廿八日御使者の同年十月
廿八日大坂の同年代の同八年四月
廿八日陽の十二月十八日布衣の同九寅
介十日大清水の元文四年十二月
十日死年歳同寺舞

改方

[illegible]　[illegible]　[illegible]

元文元年申年二月二日寒雷○霜降
三年子二月十八日初見○同日未年春
十日小雨○同年七月十八日晴
○同年八月大八日四小雨○同年二月十八日
大雪○寶暦八寅年十月十二日見二十
日未同寺奉

改明

寅年元文年八帝改元
元文法号　桂太郎　左京

寶暦八寅年十二月大七日寒雷○明和
元申年九月十一日初見○同年七未年
九月十日大雨降○十二月十八日布雨○寛
政元年九月大日小雨降○寛
同七乙年十二月十二日甲府勤番
就○同月十七日法変○同九乙年春
海日新暦勤番時雨○同年子年
十月八日小雨降雨

高四千二百石

改風

実横田藩浪士雄松二男
仁義左京　小十助　辰助

天保元庚寅年二月七日生ル。同年
四月廿八日物入。

東照宮二百年忌

夜京姓　高畑長拳藤丸
迎　夜　参殺　麻ノ角
老門蔦

大織冠藤原之分右仁義之殺助様
三男

京ヒ——仁義摩羅左衛
東照宮へ奉仕ノ病死

正直——仁義横田雄

右院殿

大納言院殿（[illegible]位四位の死

正勝　[illegible]殿宗海　源姓

殿有院殿（[illegible]大四位の神田御殿

四位殿の[illegible]文十一[illegible]年十月小[illegible]

今正[illegible]七[illegible]年十一月[illegible]任の[illegible]

[illegible]年[illegible]月[illegible]の[illegible]

正房　[illegible]殿[illegible]

[illegible]文元[illegible]年四月神田御殿四[illegible]

[illegible]殿の同八中[illegible]十月

[illegible]殿御[illegible]の[illegible]

[illegible]殿小[illegible]の元[illegible]七[illegible]年[illegible]月[illegible]

同年閏[illegible]月六日四[illegible]殿の同[illegible]

御小[illegible]の同年九月四[illegible]殿の[illegible]

元[illegible]年七月[illegible]

葬記

正宣　仁寿殿書

寶永六丑年閏四月六日　小性組の輩

九辰年十月二十九酉の刻　元文五申年

五月四日死　六十二歳　同寺葬

正道　仁寿殿助　泉

元文五申年　死落　○寛保元酉年

十月廿八日　小性組の亀麿三万子

十月廿日病気の事　宝永六年子六月二百

没位の寛政七卯年十月廿三日死年

三歳　同日葬　○

義矩　仁寿殿書　隆命

宝永六年丑年七月十二日　死落　○寛政

子年十二月平士方以来役仕被○寛政七
卯年二月五日小普請組松平康衍支配○同
辰年五月十六日末期　上覚人被仰渡
○同年十二月十日病死勤
高四百八拾俵

巖有院殿御代

藤原姓　高四百五拾俵
乞夜　家紋　兼ノ角
蔦ノ丸
稲穂丸
乞夜三郎貞人春　十八代

正元
乞夜源三郎
万治二亥年七月十二日大御番被○二百俵近習
丑年十二月廿二日新番被○同二寅年十二月
十八日御加増千石○元禄九子年十一月十一日
新番組頭被○加増二百俵○同日より病免○同十八年

九月十四日死去ス右四位ノ小葬ス

正氏　文政八年四位ニ昇ス　天保七年大学

養子ノ元徳十六年ニ十二月九日ノ養子

ノ實家水元中ニ六月十日ノ書院番ノ

家督ニ成ル天保二年ニ四月ノ日小普請入ノ

年四月ニ病ノ仕ノ四月ノ日死去ス

死同日葬ス

正常　文政十四年九月家督ス　天保十二年

養子ノ定喜元子年ニ月ニ病ノ仕ノ

ノ定喜ニ宣ス十月九日大作事ノ賞ス定

元慶年十月ニ病ノ仕ノ四月九日

九月廿九日死同寺ニ葬ル

正方　天保八年

宝暦九卯年十月廿五日発番の明和
二巳年二月廿五日大番頭の下役変
二月十七日病死の寛政三亥年四月
廿七日、病状に付の同年十月廿五日発
同年変死

一武

仁右衛門

天保二寅年七月廿六日次男熊蔵の寛政
二亥年七月廿七日発番の同九巳年十月
廿七日大番頭

宝暦五乙未年

幸盛家僕

源姓　高屋

氏　藤谷

通茂

新羅三郎義光の末裔藤谷殿家

婿男

信右衛門　藤谷通茂家府

武田信玄に仕へ天正十年年

東照宮に召出され慶長永四年歳又に此

年寄と為り元和元年正月十二日死

信言　藤谷四郎七郎

[illegible]○[illegible]中年二月廿二日死家

所絶

信実　[illegible]

寛文元酉年十二月

清揚院殿、[illegible]仕甲府殿城代勤

○延享三寅年[illegible]月[illegible]年[illegible]

死

信之　[illegible]

延享三寅年[illegible]月[illegible]○[illegible]和二酉年

甲府城代勤

[illegible]

信氏　[illegible]

[illegible]

天和二年六月十九日死去の元禄十七
年閏二月十九日甲府へ入用来る の同年
五月桜田屋敷へ移る
文治元年 の三男 桜田へ
一同年九月江戸へ参る 添番 の二男 宝永元年
七月十二日病死 享保九年 三月十九日
死 麻布 へ葬る

信門 宝竹門院 信義 の子
元禄元年 生

家永元年 六月十一日 年 寿 の
俊文 宝永元年 七月十二日 病死 享年 の 享保二年
年七月二十二日 九歳 の同年七月 年
十二月 日
石清水 別当 小十人組 の元文元年
十月 日 病死 の同三年 六月十日
死 麻布 へ葬る

信安 元禄 源 殿 寿楽

元文二年丑九月廿日船番の同心中
七月廿日　　第二番勘定小十人組の寛
保二戌年七月六日病死の三枚元年
十二月十日役仕の寛政三亥年廿日
死十年一家同日葬ル

信濃

三枚元禄二年十一月十日船番の同心中

年十一月廿日病死の寛政元亥年
十月廿日役仕

信豊

東中大番組
組屋敷
寛政元酉年十六月十日本家の同
十二月十日家督の寛政四子年九月
廿又日初見の寛政十一未年六月廿日
出生寛政

高百石

源姓　高百石拾俵三人扶持
　　迫茂　家我　上ノ薩州
　　鷹羽折紋

法和元年ニ出淀用所ニ相勤之
大坂ニ勤番ニ罷出ル男加茂男貞次男

市ヒ　初貞治　ケ茂左衛門尉　今ハ

寛永十四年三月廿日出淀　十拾俵五人扶持
六月廿三落城ノ時十四歳ニ成
大日出淀用所ニ加茂ニ帰

同十六年十二月道中筋惣惣奉行
大坂城の同十七年十二月廿八日押
学頭の同十九年閏十月廿日病死
[illegible]十里に[illegible]
寛永二年の[illegible]
寛文三年[illegible]の同七年
八月八日[illegible]
寛永十数の[illegible]寛永七未年三月廿三日
病死の同年九月廿日七年二乗死濃

法名寺墓

宣正

[illegible]
[illegible]寛永七未年十二月[illegible]の[illegible]
十一月十日押[illegible]
十二月廿一日病死の同[illegible]七月廿一日
没位の[illegible]十二月廿[illegible]
[illegible]

利正　慶
[illegible]

正若　左衛門尉

寶永四年七月廿日死去の享保
十二申年十月十日死去年二歳同妻
葬

正則　左衛門尉　八郎

享保十二申年十二月家督の元文二
年子十月廿日墨見出玉蔵寺の
寛保元酉年十二月三日出奔逐の安
永六酉年二月十二日死年七歳同妻
葬か

正好　左衛門尉

寶暦十二年子九月廿八日出奔逐見出の
安永六酉年二月六日家督の同九年
二月十二日死年九歳同妻葬

正慶　　宇津宮左馬頭平氏綱　織之所　女亞

安永九子年六月日ヨリ書写　家蔵置

天明六年十月二日病之

高百貫拾俵ノ人扶持

廣瀬家系

左馬頭氏綱　　高三百貫

左馬頭氏綱　　義勝ヨリ綱朝

次男

道鈴君ト号ス　孔雀十七歳ニ成ル

その長後ニ宇津宮藩佐竹ヨリ呼ス

淡路ニ於テ自刃ス　家ヲ

関東ニ陣佐竹の死

改表　　[illegible]

東照宮ヲ初平[illegible]ノ
[illegible]院殿ヲ奉仕ノ寛永十[illegible]七月
[illegible]日[illegible]無[illegible]

改補　　[illegible]助軍

[illegible]院殿　[illegible]奉仕[illegible]人[illegible]人ノ

寛永十一[illegible]月[illegible]日[illegible]無[illegible]

改勝　　[illegible]年[illegible]

[illegible]院殿ヲ奉仕大[illegible]ノ元和八[illegible]年
八月十二日死[illegible]

改里　　[illegible]年十郎

正和二年九月廿六日大法眼の元福
八幡宮の御神記を付け奉る
同日奉

政則　寛喜元年卒歟

元徳十日廿六日御番の同十六年
十二月廿六日大番の上洛間令参勤
後二日正徳二年十二月十八日死同日

葬所

政房　仁治元年卒所

正徳二年二月廿六日御番の京都七
寛喜十二月十六日大番の同九年十一
月十六日新四郎番の同十二年二月
廿七日小金原四郎右衛門の京都七年
二月廿日番人の京都七年卒十月廿八日

宝暦七丑年十二月十八日

布衣の御祝儀

表の御永代家督三月八日

公方様御代二の月

十二月廿七日

改寿　千菱摂津守　平正　光

寛保三亥年閏十月十八日九郎兵衛の同

十月十二日小姓の同十月十八日流罪

宝暦二申年三月廿日病気の長後病

家督相続同八酉年八月廿日卯刻除

改盃　実義常しの男　千菱摂津守　左京　立番　平十郎

宝暦八寅年十九歳十二日病死跡の養子

天明元丑年十九歳小姓の同七

成年　三月廿七日死亡

御不届の勤の事有之元丑年五月四日隠居

同八年十月廿四日病死跡の養子七

文政三月吉日　奉仕の同八年壬子十月四日病死の意元年三月中旬
吟之大的呼之二の同天保三年四月五日
小松川村百姓呼之三

三百俵

清康君御代

夜原姓　高橋三郎兵衛
之　夜　孝政孫光
光雄祖父之次
昌秀　之義ノ右筆ノ
清康君　廣忠君の病死
秀政　之義ノ右筆ノ

東照宮より五人成御石数蔵へ
徳家の御朱印十二石を府英称門跡
後光明天皇に賜く
四條義孝卿御知行之儀
永代のとおりに御取通
徳川家光公御代慶安二酉
徳川様石寺を寄
八十郎小右門様石寺を寄

改修　　文政三辰年　　右写し置

寛永二酉年
高院殿御初見大御殿方御所
徳家の慶長十四酉年二月十九日御
ゆるし大寺壬生寺の儀を壬生村
上賀人寺を考延ありひ石殿と
不極し旗下宋色し御意ありしに付
加様百姓の寛永七年七月十二日二条

[illegible]死七年二歳

後房　[illegible]

寛永七年[illegible]の忌保[illegible]有

十八日年三歳[illegible]死[illegible]葬る

政信　[illegible]

忌保[illegible]十二月廿日[illegible]の[illegible]

[illegible]七月[illegible]の[illegible]年[illegible]音

[illegible]年八歳[illegible]葬

氏秀　安藤対馬守氏之

[illegible]　[illegible]

貞享[illegible]十月十日養子の[illegible]十四

[illegible]の[illegible]十月廿六日[illegible]

[illegible]の[illegible]日病気の[illegible]

暦応元年八月十日死亡一族同事

紙氏　文書家宗一所　敬し助

寶暦元年十月日死亡一族同事

永秀　文書家宗一所　敬し助

寶暦十二年正月日死亡の事

二京元年十二月廿日死亡戸の天合

年号同年月廿日所乃勤の寶文元

年九月廿五日死亡一族同事

常房　実紫村又兵衛左衛門尉

文書家宗一所　敬し助

寛政元酉年十二月六日書之分

同九戌年十二月廿七日大神宮

三百俵

○ 三百三拾俵

廣重殿 嫌し角 孫丸

追放

正廣代

定番判官

正秀

定番小役

東照宮御代ハ七月廿六日之御上洛

板倉伊賀守殿ハ西丸ヲ守ル

の別ハ其地ハ世話焼仕ル方ヲ付ル

此度ハ格別之不達 上様ヲ其者小役

致シ候ニ付其旨等ヲ以喧嘩ニ及候上ヨリハ
何ゆへ右之相手切殺と仰出されし處小作
彼者立退候ニ付上ニ而ハ左様之事ニ無之
候とも何ゟ有之候ハゝ早速立退候所不届ニ
思召されし小作者ヲ切殺とて上之首ニ親
彼者小作出奔相願ニ付同時刻抜候而罷立
脱落小作親ヲ切殺とて仰付し其ヲ刎
小作之義ハ一先ツ其者ヲ親ヲ切殺而仰付候ハ
故事之申渡ハ勤仕信玄ニ付候ヘハ以往死

手段上意ニハ小作親ヲ切殺とて仰付候得者
此節便ヲ思召され小作義親の為ニ
忠ニ勤候事故無之抜ハされ可然處無之
上意の旨ヲ小作義病死時一人ハ病者ニ而
一族共上ニ而一人ニ而も近辺ニ者有之何ゟおさら
右者生国庄内辺不詳

正孝

近藤小作

商人并浪人

正重　　正慶小作

東照宮大坂御陣御発向の刻遠州濱松より
被召出御供仕、上下拝領供奉御陣以後
御帳面に水戸殿へ渡させられ候処私
義も不存知数く相勤候、寛永年中より江戸
を発足中山備前守殿与同心に罷成申候一元

小姓一人斗の儀

台徳院殿へ召出され候処、御席次にて仕る
中嶋と申す者、若年より御供仕、小姓にて
中山備前守殿下にて駿河大納言殿衆
小十人組番頭稲垣若狭守殿へ御預にて御免
浪人に罷成候、三ヶ年程以前に死去仕候
宗春院と申候

正澄　　[illegible]

天樹院殿御領のうちにて
清揚院殿御書院番にて拾人扶持
八月十五日廃米二百俵ゟ同八申年ゟ月番
加扶百俵ゟ寛享元子年ゟ勘定所役料
百俵ゟ元禄元辰年十月十五日奪世
七三郎儀武州ゟ於ゟ和州ゟ於ゟ遍歴
[illegible]年七月十五日ゟ役儀免小

普請入ゟ同申年九月二日甲府ゟ子
歳ゟ同年十二月十五日ゟ死ゟ同ゟ美ゟ

正英　　[illegible]

桜田ゟ於ゟ神田ゟ元禄六酉年七月
十五日ゟ三百三拾俵ゟ同年十二月十五日ゟ小性組ゟ
宝永元申年十二月二日ゟ[illegible]ゟ
同ゟ子年十二月十九日ゟ相模ゟ番ゟ

国立公文書館
National Archives of Japan

寛保元酉年十二月二百家者の因之
寄付仕る書院数の寛延四未
年九月廿日病死の宝暦十二酉年
九月八日没仕の寛政七卯年迄十日
死年家因る奉

正方　文政七申年　作義　寄文

宝暦十二未年九月八日家督の明和元
寅年二月廿四日書院数の安永四申年
四月日光供奉の寄付の文政六年卯年
寄付の寛政八辰年十月
廿六日同様家人の同年十月十九日布衣の家
暦十三未年九月廿八日迄御番
上覧被仰付の安永十巳年二月百俵
迄大的上覧被仰付の明和元辰年
十二月十七日吟上御番金二枚

正信　之義

安永九子年閏正月廿七日二男[illegible]の事

七未年十月十六日初見の[illegible]十年目

十月六日死二年[illegible]同[illegible]事

[illegible]

[illegible]

近義　家督　[illegible]

近義三郎[illegible]事十代近義[illegible]祝[illegible]

長男　[illegible]　清康角役

清康[illegible]相[illegible]

[illegible]　近義[illegible]

清康[illegible]仕[illegible]事年正月[illegible]

正重　近藤太郎

東照宮へ幸仕。元和三年十二月廿三日味方原
浜陣の引付先

正忠　近藤八左衛門

東照宮へ幸仕る天神藤借事ニ別り
於く死也

正次　近藤又左衛門

天正十八寅年関東浜打入の時武州鉢形
わく乗城ニ百石十八俵の扶を給ハる
同十九卯年奥州南部表ニ九戸陣取
浜退治の時歌合仕く諸軍ニ歌と詠く
浜陣後歌味方の間ハ穿鑿の所張ニ
七間半ハ也ようく慶長五馬ニ給ハ

○慶長五子年関ヶ原出陣ニ付名市蔵ハ
英永樂二千貫文ヲ給ハル○同九寅年元和
元年大坂出陣供奉。後河内大縄公殿附
加扶三百石ヲ給ラル新代役。大縄公殿
落去の後石出ヲ免ル寛永十丑年
十月廿日死ス

正則　通称庄三郎

東照宮ヘ奉仕長久子出陣の附天正十二年
四月九日戦死　八歳

正勝　通称八云衛

後河大縄公殿ヘ勤仕落去の後
大蔵院殿ヘ石出ヲ免れ新扶二百石二の丸勤。西
丸出陣の附大坂ニ。天和元酉年十月
二日死ス若正意を慰る為ニ

正之　従五位下十左衛門

教育院殿清代新屋伝の大小者に兼庶二郎左

八月十二日大坂夏の陣遠州にて死

日寺に葬る

正則　実子　従五位下二郎兵衛

又十郎号新屋伝の元和二年二百俵給る

小者伝と号す寛文四辰年六月十八日

大坂夏の天和元年十月嫡孫弟祖安信

二百石元禄二年二百俵上る○貞享二寅年

十二月十九日元方に御戸○元禄五申年

八月二日死四十二歳日寺に葬る

正長　従五位下二郎

元禄六申年十二月四日死去。享年七歳
六月廿七日相続ス男子有之
大小書○寛永二百年病死○日二歳年
六月八日死ス二十四年同寺ニ葬ル

正勝　三男　左兵衛善兵衛

寛永二戌年七月廿七日表ニ出ル
日ス成年四月ニ日大小書○正徳二巳年
十二月十二日病死。享保九辰年十月九
大小書○巳ニ寅年十二月廿九日病死
○日ニ卯年六月十七日死ス二十六年
寺ニ葬ル

正幸　左兵衛大夫　宮次郎　陽春院一行

寛保二戌年十二月二日大小書○巳ニ寅ニ
卯年九月四日死ス○宝暦四戌年十月

廿九ヶ元方ヶ浦ヶ戸ヶ同七丑年九月十日病
免○同和ヶ五ヶ年十二月廿四ヶ大ヶ蔵○天
保四辰年二月廿七ヶ病免○同ヶ巳年
三月廿九日役仕○同七未年七月ヶ病免
年ヶ業同寺ヶ養ヶ

正蔵（ミツ）　紀義八会津　七ヶ助　小孫ヶ
天保ヶ巳年二月廿九ヶ家督○同年十二月
ヶ二百石

廿ヶ大ヶ蔵○同八申年ヶ月廿ヶ病免

義東姓　　今年三月三日ニ五人口

通義　　男女八人　廉ノ角

正義八名清二郎二男△　　男女　廉ノ角

正別　　正義庶子二郎

東照宮ヘ奉仕ハ通習。天正六寅年冬ノ頃右衛門

佐様の別儀ニ付　御前ヘ召出被仰付

ヘ之段段々ハ前の如ク之ニ付罰ニ被蒙

ニ付之段羽わく別ヘ仕ル　中夫一子中夫

根ハ大内方ニテ独活根と申天下ノ
二十本有之間の者命あり之を賜ハる
十二申年七月大内殿陣供奉柳原或兵衛
佐ハ之を以討死

正長　　足利義教二郎尤也

東照宮ノ御初の付祈願所ハ之を勤仕ス
関東ハ行入の刻供奉ニ加ハる事

慶長元子年二月十六日死

正明　　足利義政尤也

右憲院殿奉仕後決不知

正村　　足利義尚尤也　　源長安休

右憲院殿市代ノ祖の筋目と云慶安二丑年

十二月二日より於く拜領の茶筆の夏喜
元々年十二月被仕。元禄八乙亥年十二月
廿四日病にて小日向長仁寺に葬る

正直　　毛利長治
左憲院殿、幸仕候決不知

正名　　毛利久次郎
西宮大臣年間十二月神田中殿中にて
拜領。天和二戌年九月より日三度年
六度宿にて西丸茶筆。夏喜元年
十二月表啓小姓。日三寅年二月茶
筆。元禄十寅年七月八日死日に葬る

彙改

毛利慶源次郎

元禄十寅年十二月十八日死亡。享保十
巳年六月二日本家ニ而出家。同年六月十六日
死亡。勤ニ寄保二癸年二月十日出家
事。○宝暦二年十二月七日死亡
八家日寺ニ葬ル
彙改学問相嗜文章ニ詩歌ヲ好ム
著述草稿ニ書物ハ有ル共少ク先年
洪水ニ而不残水腐仕候梓行ニ
書ハ無之本義老子答問書蘆陰
稿本ニ書世ニ流布仕ル書ハ無之

政情

通称小源太

寛延二年十二月廿七日死亡。○宝暦
八寅年十一月十六日大御番。天明八申年

四月二日死ス　享年六十一歳　日蓮宗

改名　正義源三郎　隠居　朴山

天明八申年七月二日変名ス　寛政五丑年
九月十二日　親御ノ寛ニ付　二月六寅
年同十月十七日　役仕

正路　正義　後信五郎　三郎　書年右ニ付　枝相
寛政六寅年同十月十七日変名

義東姓　高百五拾貫
近義　家筋　兼角抱
前田大納言利家卿近義除左衛門尉
長男

忠政　―― 東

寛文二寅年祢因ニ歳ニ而ニ歳ニ
○江戸ニ而○浄徳院殿御○天和二壬戌
六月廿日逝去ニ付ニ而○元禄元辰年有

出勘定○同九子年二月廿八日死ス年也
大信寺ニ葬ル

忠秀　法名小云坊

元禄八亥年十二月十日出勘定○同九子年
二月廿八日又死同言○享保十巳酉年正
月廿七日深吉殺○元文四未年十月廿日
放蔵少考信○寛延二巳年十月廿日死

七十二歳日寺葬ル

忠重　通称平十郎

享保六丑年十月廿四日出勘定○寛延
元辰年十二月十八日死ス

忠直　嫡孫弟祖　法名夏雲

国立公文書館
National Archives of Japan

寛永二巳年二月十七日嫡孫伊祖○同年
十二月廿七日安睿○寛政九巳年二月廿七
歿ス六年六月廿日ヨリ家ヲ

忠行　近義小兵衛　高百石
寛政九巳年六月十七日安睿

歿

東照宮ニ従ヒ関ヶ原ニ於テ戦死ス大小姓近義
忠吉卿ニ奉ス二男

近義　高百俵五人扶持
安政　嫡孫
慶長角

正義　近義長男

教育院殿御代ニ伝ヘ一石出ス○延宝八申年
長男ニ家○貞享二丑年ニ廣安ニ渡ス○
同二寅年瑞龍院殿御○元禄二酉年

四月死ス法名廣徳寺殿中徳智院殿

正廣　近衛基嗣

宝永二酉年　安倍　○同日癸亥年十月ニ天
守番○正徳元未年七月死同寺葬ル

正秀　実ハ右京亮正英男　近衛伊右衛門尉

宝永四亥年十二月十八日安倍　○正徳元未
年十月安倍　○同年中二月ニ天守番
○享保二酉年四月病死○同七寅年
十月ニ天守番○享元子年八月ニ勘
定○宝暦二申年九月死同寺葬ル

正觀　近衛右大臣　基之助

宝暦二申年十二月十日安倍○同三酉

六月小荷駄組一同命ぜらる　同年七月
支配替ありて同十二未年十二月廿九日西丸
小十人組に移る　和田義春十二月廿八日病死
天明六年九月十八日死　六十二歳　日寺ふ
葬　敷

正為　　近藤吉左衛門　　菊之丞
天明六年十二月七日　　言右衛門　技術
　　寛政十年

五月　小天守番

宗門帳

藤原姓

迫義

信義方秀郷末葉九郎右衛門文約迫義と
號して文約後亂迫義子金長男

迫次

迫義越後

東照宮へ奉仕

六百石

家紋 竹に雀

秀正　　近藤藤左衛門

東照宮に従ひ奉仕の間、関ヶ原上野介小諸にて
強勢大領を賜附。寛永二癸酉年九月
十七日死す

登正（サツメ）　　近藤與兵衛

元和元乙卯年、冬、大坂陣の列、大番
言木与水正組に供奉、後、我の対敵
城門より出合、鉄砲打掛しの本多忠朝
中間を傷し、城中へ忍び働く
手柄兼私弥次右衛門と云を通り、後
人より命を其後、陣場働、寄撃を
以て陣場の後、鑓を以て小銃四の
二百石一石を給ふ。
台徳院殿、小性。大番。
大猷院殿、御代別、代官。兼應元辰年

正月十日ハ先ヲ出羽絶版ニ○同二巳年同六
月廿九日ヲ死ヲ後ヲ世中長敬寺
了英歟

来　　道義弥平
　　仲伊場新助方ヘ五百石ヲ拾ヶ

正時　　道義七郎左衛門　牛ヶ瀬

永應二巳年十二月廿日ヲ死ヲ○出院者
○病免○万治二子年二月廿七ヲ死同寺
了英歟

正之　　道義與兵衛　酒ヶ瀬
万治二子年ヲ死ヲ○元禄十丑年六月
十七日ヲ死ヲ同寺了英歟

正周　　近藤主殿

元禄十巳年七月十日夭歿。同月廿日死

九歳跡式断絶日数より養る

正信　　近藤與兵衛

曽祖父登正大坂陣浅野の戦功有

一族多名跡断のよりしに元禄十巳年

十二月十二日召出され二千人扶持。享保十乙

酉年五月廿九日西丸半人。同十八巳年正

月七日死て跡二歳日数より養る

二男浪人　近藤大蔵信清男

信清　　近藤孫三郎

享保十七子年十一月二日歿る。同十八丑年

四月廿日夭歿。同年九月十四日死廿六歳

同年小葵御

正安

近藤弥二郎　久次郎

文政年間故人光能男

享保十八丑年十二月二日奉公家番。元文
二巳年十月小十人組。宝暦元年
二月十日病免。同二壬子年十月十五日死
廿九歳同年小葵被

文政

文政年間故人光清男

近藤與兵衛　蜂次郎

宝暦二壬申年同十二月二日書役。宝
暦四甲戌年二月十九日死。宝暦九卯年
八月十二日小十人。明和二酉年二月廿六日
吹上大砲附役。同六丑年十二月十日小人
組入。同月廿六日二十人扶持頂戴ス
○安永八申年四月日光帝社参供奉。

寛政元年十二月十日ニ死亡ス

二男

文敬　通称戔六郎

安永四乙未年十月十日ニ二男出生ス。天明元辛巳年九月十日ニ初見ス。寛政四子年二月晦日大小姓

義京姓　高百貳十五石

通称　茂孫　九十郎　稲橋

茂孫市盈童通称国信ト長男孫三郎盈吉尾州ヨリ移リ浪人ス

盈利　通称庄左衛門

寛文十壬寅年二月石出サレ小姓役ヲ能庸ニ来ル二年後二人扶持。貞享元子年百人扶持。元禄四辛未年死ス。法名正應寺小夢居

実あり後村上の末
建武年之間北畠
左衛門尉

勝盛

貞享元子年十月廿六日書之者也所方正酒
役○元禄八亥年十月九日中野出国役
○同月廿六日出国役○同十一寅年
十月廿四日西九ヶ番○同年十二月加秩
十俵○同十丑年十二月加秩二十俵ニ人
扶持○享永二百年同巳月十八日出役貞有

正治二己年十二月廿三日ヶ條二十俵○享保
六丑年十二月廿八日少納言殿○同十丑年
二月廿六日工改○同十九寅年八月廿三日死
七十歳同寺小菊ヶ

重富

左衛門政次郎

享保十七子年十二月六日初見○同十九寅年
十月廿七日病者○元文五申年十月廿七日死

同寺小姓名

盃幸　　左近衛殿

元文五申年十二月廿六日家督○宝暦十三
未年五月九日ゟ天守番○天明巳辰年
閏正月廿五日ゟ勤役○同六午年十一月
十日関東門ゟ出奉行用同月十六歳
附役二金二枚○同七未年八月二日褒賞

言百俵五人扶持

附役二金二枚

道興君

後京極殿　高七郎康之助様
近後　家後守之後ノ丸
康ノ角

大織冠鎌足の後裔藤原守房の軍秀
々々代近江根源行房の孫　近後武者和
景頼十三代底三郎　某男

某　近後助義

道興君ハ石出され二州偏狩大臣の因其後
東照宮へ出仕ニ別ニ天神山陣の府徐疾之

ヶ所を賞し時

東照宮清水自市乗と神君弾丸助を揚る

○関東諸侯伺者少勾陣の後伏見

とゝく所なして

某

を義と義助義

東照宮関東諸侯入国の別伺者

右法院殿清代参上総介忠輝三河

経歴十八歳の間○正保二百年所

某

を義と義助義

慶安四年

常憲院殿三の丸清水殿乃附先祖数代三河

以来奉仕し前日光伺（右出さる○

万治三子年伺見身○天和元百年

西丸広廣安藤書○同三亥年西丸附

一同出家後ハ貞享二丑年九月写死
弥也俗林寺小夢録

追定

寶永年間家督相続ノ男
丑歳寺元書

貞享二丑年十二月吉書ハ元禄十寅年
七月表方ヘ書ハ同十六午年十二月後
見分ハ正徳三巳年九月文政勘定ハ同
六未年八月江州慈賀郡北小松村河村

論不足分検使清用ハ拝領ハ二金二夜
ハ享保元申年十月物渡ハ同三戌年十二
月吉日ハ吉日ハ来子百五十俵ハ同六年
十月二條ハ義寄ハ同十四百年十月
九日死ス年九歳東教如様ヲ養子

近元

近義孫八郎

享保十四酉年十二月廿六日家書ハ同十六

戊年七月廿六日組○寛永二寅年
八月十八日死ス　辛亥業　弱之　増林寺小
墓敷

近昌　近茂令十郎

寛永三寅年十月十二日　七拾歳ニ入　技物
寅年十月廿八日　初見○同年十月新
参次郎殿近昌書○同九卯年七月十二
日　夏皆勤　饗宴付役一言変一反○同年十二
月十六日小性○同年同月廿八日皆勤　饗
宴付役二○天保六乙年十月十六日勤定
年数指○寛永二丑年七月十日勤定
奉行○同七卯年八月廿日　後法院殿葬
送法中天保十二○同年同月廿日
清水殿遊宴　九日勤定○同九
巳年二月廿八日清水勤番組入

通義　通章　壬寅歳采女郎

安永五申年八月廿二日初見ニ付年十二月
十九日諸義仕り為ニ小十人組ニ付八
五年正月廿九日大目付ニ天明七
五年二月廿日ニ付六年十二月十一日
ニ付ニ寛政元酉年三月十七日ニ付
同六寅年二月廿二日ニ付七卯年
二月廿日ニ付令東西康猶借年ニ付八辰年
十月二日大目付

藤原姓　高士稙康五ノ口

道義　家紋　康抱角
藤ノ花

義泉秀々大代道義景形未滅道義
庁二郎景輝長崎ヨリ出仕七人ヲ
於て我死京輝男ニ義助義泉忠の
長男

景豊――道義八郎左衛門

又助義泉忠俊寛永廿未年武州稲毛

於備後十八歳の冬小弓を男子妻腹
初雅おく安絶二乗豊後二業わく左別
氣質くく勁もく同家を愛継夏外知行
所くに引続十八年ゑ小寛文二寅年
祈因清厚ゑとゑく出仕ゑく古家代廣業
早儀ニ入技相○同二卯年八月十二日出仕
見身○同九月年十月出廣安源義が
秋三年儀ニ入技相○延宝八申年十月
浄徳院殿為改入ゑく形ゑく時出家入

○天和二戌年六月廿日西尾一同出家儀
○元禄八戌年十二月十二日被仕○同九年
年二月十日死ゑて小石川善仁寺葬ゑ

大書ヲ加
実名七左衛門ヲ右衛門ヲ
景行　通称源左衛門

元禄八戌年十二月十二日養子
表ゑく書○同九年
葬ゑ

十七年六月廿日死同年小

実弟

景高

近衛源四郎　豊久

元禄十七年七月十日家督○同年八月七日
西丸小姓ニ成○宝永元申年十月
廿八日死ス　同寺ニ葬ル

実子

勝政

近衛源八郎

宝永元申年十二月十九日家督○同二
酉年十二月十二日蔵人兼宝書○正徳
二巳年二月十日死ス　同寺ニ葬ル

大納言ヲ贈ル　実弟七郎ヲ以テ二男

元穣

近衛七千郎

正徳二巳年二月十二日書ル○同年六月
七日家督○享保戊年八月二日致仕○
同九卯年二月廿四日死　同寺ニ葬ル

国立公文書館
National Archives of Japan

義明　近藤三郎兵衛　又次郎

宝暦四戌年八月三日安寄。同九亥年
十二月十六日西九ツ伝目付。同午辰年六月
西九ツ二九勤。同年八月三日ツ申九勤。同
十二年年十月十五日
義若附。明和六丑年正月廿六日ツ勤定。安
永九子年十二月十九日関東門〻ツ番信

濃用ツ勤今二枚附役二。天明元丑年
四月勤ツ内渡場日月廿三日褒賞金二枚
附役二。同三卯年二月十一日上水方道方
立合ツ用。同年四月三日ツ番盛橋ツ債
ツ給言石垣築造ツ用。同年十二月廿一日
張ツ枚。同巳辰年十二月晦日上水方道
方立合褒張ツ枚。同六午年九月十五日
渡明院殿ツ葬送市谷ツ用。同年同十月
十二日褒張ツ枚。同年十二月廿三日平川

御番座候失跡清水附之御番〇同年十二月
廿五日褒金壹枚〇享保十五戌年十月
拂方御納戸

常憲院殿

藤原姓　高百俵

近茂　弥五郎　嚴五郎　藤兵衛

浪人近茂任左衛門養父四男

故　章

近茂六左衛門　隠居　寿盛

初名安川氏
宝永三戌年四月廿六日西丸さ札御廊下
番廩米百五十俵〇同六丑年十二月廿六日
附斗ニ而御留〇正徳六申年五月十一日
一統小普請〇宝暦二申年八月廿二日

役仕○同九卯年六月廿六日死九十一歳
別也大運寺小墓に

政右　　実ハ牧右衛門昌忠二男
　　乙養子養子助　　源兵衛同休
正徳四年十一月廿六日養子○同年
十二月廿八日初見○病所ハ胸腹痛○
寶暦四年四月廿五日五十五歳にて

政香　　嫡孫ハ祖父乙養子　　市右衛門
宝暦元辛未年十一月十九日嫡孫ハ祖父○同
二申年八月廿六日家督○同六子年四月
廿九日表ハ右衛門○明和六丑年七月十六日
病死奥ハ右衛門○安永六酉年二月廿四日
表ハ右衛門○同十丑年六月十九日病死奥
ハ右衛門○天明六午年ハ中ハ勤○寛政

元禄年十二月共ニ出張地玉薬奉行ニ同
人廿年十二月九日死亡跡不宜ものを
つゝく奪盛有る百姓借の内平侍収
入少者信入同つゝ同六寅年五月十二日
同つ伺見。同九巳年十二月十三日死亡
六十七歳日蓮小藤次

改武　乙夜今次郎
　　三百俵

寛政十年二月吉書

東照宮

源姓

近藤

高三百五拾石

家筋 [illegible]

先祖不詳

正吉　　[illegible]義宗太郎

東照宮(強)御代ニ召出され大番ニ寛

永元子年十月廿五日死亡 世一歳

正信　左近太郎助

寛永元子年十月廿五日書ニ同十六
卯年大小番ニ新小姓ニ寛文二卯年
二月十一日御番ニ日午戌年六月十六
日ニ四十七歳牛ニ預四年小姓ニ

正邦　近左衛門

万治元戌年二月初見ニ寛文十戌年
七月八日死亡ニ寛永二寅年四月廿七日
大小番ニ元禄元辰年十二月廿六日拂方
少納戸ニ同七戌年九月新ニ拂方小納戸
組入ニ同年十二月廿五日ニ拂ニ百俵ニ
三百五十俵ニ享保元申年九月廿一日
病免ニ同十三年七月七日死ニ七十六歳
日蓮小菩提

正武

近藤紋左衛門　新左衛門　一学

陽春一樂

元禄八乙亥年七月廿六日初見。宝永六丑年四月六日大小姓。享保九辰年十月十二日元方御戸。同十二申年十月二日奏者。同十七子年六月十一日元方御戸組頭。享保元辰年四月廿四日死。

免。同三午年十二月二日致仕。宝暦八寅年六月廿六日死。七十四歳。男子

正明

近藤新左衛門　新左衛門

元文四申年十二月十一日初見。寛延二年七月六日奏者。宝暦二申年九月十日大小番。天明四辰年十月廿四日死。六十

歳。男子ふ養子

正方　　通称校左衛門　　紋右衛門　　新義

享保十三申年九月病死。天明四
辰年十二月廿六日死。安政四巳年六月
廿六日大火書。寛政四子年三月六日
大的付破二。同九巳年九月七日隠居小
書信。同十一申年三月廿九日死。五十
五歳。同寺より葬式

正純　　実伝寺末寺本願寺二男　　通称紋右衛門

寛政六寅年十月十八日養子。同十一申
年六月二日死書

借銭　　三百五拾銭

和歌

義原姓　高義　武　百五十俵

　　遠義　家綱　乃ち義光　義家ふ光

尚井頼慶の一族なり源頼朝家臣なり

但長遠義源左衛門尉義家男

　　遠義　右左衛門

　　集

宗安四卯年十二月五日おされ乃勅定

祈四海厳勤。四歴二申年書留集終。

寛文七未年病死。元禄元辰年十二月

又日死後号一乗寺小夢ト

正徳

乙夜七郎左衛門　保左衛門　虎之助

元禄二巳年七月十日夜書ニ同又申年
十月二日ニ勘定ニ宝永又子年十二月病
死ニ正徳又未年十二月十五歳仕ニ享保元
申年四月廿又日死ス子二歳ニ寺夢ト

咸興

実紀徳川家宣
徳川実紀ニ第三男
乙夜万次郎　号左衛門

正徳又未年二月十九歳表ニ出ル。同年十二月
十五歳書ニ享保九辰年三月廿六ニ勘定
ニ同十二未年八月八日ニ飛騨国ニ科ニ深検見
ニ付ニ所領金二枚ニ同年十二月十五日ニ病
ニ同十三申年九月廿二ニ甲斐国ニ引籠
ニ所領金二枚ニ同年十二月十五日ニ病死ス。元

文二巳年二月大日議定之義ニ付ニ家保
二戌年七月廿日ニ代変ニ付年十月十日
関東筋大川通堀川筋ニ出張ニ付
三丑年同巳月廿ニ日ニ家貴金二枚附渡ス
羽織ニ付年七月十日右出張ニ付
右出張ニ付私敬
月廿ニ日ニ代福田牧左ニ付同恩の儀ニ付
通被仰付ニ付恩の用ニ付ク元和ニ

同年九月十日ニ家貴元和ニ付渡ス
元子年七月ニ日ニ家貴ニ付渡ス
二ニ付年十二月ニ家貴ニ付渡ス
七日ニ家貴ニ付渡ス
物置ニ付年六月八日ニ家貴ニ付渡ス
附渡ス
人代年ニ付渡ス
巳年六月ニ家貴ニ付渡ス
年八月ニ家貴ニ付渡ス

十万石にて六千二百石日常ゝ養る

実相寺殿帝保三年二男

正義元次郎　陽春芳山

保好　保忠

元文元辰年十月廿五日表ゟ二巳年
十月廿五日初更ゟ亥暦元年三月四日表
替出来候ゟ仙台ゟ集役ゟ日三百年六月十五
日ゟ居組ゟ度小雪信組ゟ御出ゟ令
集ゟ居組の通ゟ日七廿年十二月

十五日西尺表ゟ義和ゟ日八寅年十二月廿
令二度ゟ相三印年日ゟ日十辰年四月
終

大出帝ゟ日年十月十五日小雪信ゟ相巳年
四月十四日役仕ゟ寅度ゟ廿年四月十五
にて七千二百日常ゟ養る

孟卿　正義左衛門　虎之助

三百石儀

享保九年卯年二月十五日初見。但和田美
年四月十四日ニ安堵。同六丑年十二月二日
表ハ衣冠。安永二巳年七月十九日更ル
衣冠。天明二寅年同十月十三日
法眼院殿法印。ハ用金二枚。同七未年九月
十三日 市代姫法印ハ用附役二。同年
十月十五日ハ常姫ハ寄法印用金二枚別段
法十枚。竟及元治元年十二月七日褒賞
の時ハ用向ニ多ク動ニ付金二枚附役

二別段金二枚。同三美年七月十五日組頭
勤向第ニ付ニ枚。同年十月十五日更ル
右衣冠組ス。同巳年八月廿日
竹千代様法印家ハ御附役二。同巳丑年十二月
十三日濃州人曽西要ニ美載ニ付ニ
宝初ニ付ニ枚賞ハ者ハ。同八年
十一月十日
大納言殿法印家ハ御附役二。同九巳年二月廿日
ハ元役法用金二枚附役。同十年十二月

大石加秋百俵

戚国　仁義元郎

寛文元年八月十九日初見。同二年
九月十日小十人。同年十二月七日小姓組。同
延宝七年十月廿日本丸番頭。同日廿日
付役。同日七年十月七日進物番。同
八年十二月十九日殿村上覚。同十七日令

二役

東照宮御代

○近藤　源姓　先祖不詳

高二百俵

家紋　九曜角　九曜角字

正室

助左衛門

東照宮に石尖さん祈願の助組よりて

勤仕○寛永五年死

正忠　検出来

寄留○水戸中納言殿消○死

正則　十右出来

桜田御殿ヶ丘出来動定作月
ら迄廃来百俵ニ付○寛文元年
加扶五年俵○同二年出来動定組
改加扶五年俵合二百俵○出廃薄
書改○元禄十二年六月改住○
同年六月廿九日死

正房　長右出来

元禄巳年十二月廿七日桜田出殿内
小姓組○同十三年六月寄留○

寛永元年十二月廿九歳大ニ留守居○
同八年八月廿二日死

別春　十助

実兄別之男

寛永八年八月ニ召出され家督ス
寛保○寛保九年八月十三日甲府
勤番同年九月廿八日病死○寛
保二年四月ニ召出仕○宝暦元年
七月廿二日死七十四歳甲州大泉寺
ニ葬ル

雅苗　初名吉之丞　吉三郎

実兄廣房二男

延享四年七月十二日養子○寛保
三年四月ニ家督甲府勤番○

宝暦六年七月勤番之上初役○同
七年閏八月十六日死亡六家目

亮直　辰之助

宝暦七年八月二日家督甲府
勤番○同十一年六月二日死亡
八家目寺

別房　十助　十左衛門

宝暦三年六月二日家督甲府
勤番○年月未詳小番徒○寛
政四年四月七日役仕

別春　十次郎

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan